

自治体ITシステム満足度 **No.1**企業に訊く自治体ITシステム
満足度調査
2020-2021
メガバメントテクノロジー

東北インテリジェント通信

受賞部門

● ネットワークサービス（有線型）

信頼性とセキュリティに優れた
通信サービスでデジタル改革を支援

自治体ITシステム満足度「ネットワークサービス（有線型）」部門は、東北インテリジェント通信が5年連続No.1を達成した。ビジネスや行政サービスのインフラとなるネットワークサービスに不可欠な「性能・機能」「品質」はもちろん、「運用性」「コスト」「サポート」のすべての項目で部門平均を大きく上回る高い評価を得た。コロナ禍で自治体の業務環境が変わる中、セキュアで安定した通信品質を確保した統合型広域イーサネットサービス「Think VPN」をベースに、ユーザーニーズに対応するソリューションを提案する同社の取り組みが支持された。

安全にテレワークが行える
閉域通信網の需要が拡大

東北インテリジェント通信（TOHKnet: トークネット）は、「安心・安全なネットワークを基盤に、お客さまにとって最適な情報通信環境を追求し、ともに事業と地域社会の未来に貢献します」を使命として掲げ、東北6県および新潟県に構築した自社の光ファイバー網を基盤に、企業や自治体が安心して利用できる情報通信サービスを提供してきた。

少子高齢化、労働人口の減少などを背

景に、自治体では効率的な行政を目指したデジタル改革への関心が高まっており、行政システムの標準化、共同化の取り組みとともに、汎用的なクラウドサービスの利用や自治体クラウドの広域化が進んでいる。

加えて、コロナ禍の影響を踏まえ、在宅勤務や在宅学習の環境整備が求められていることから、安全なテレワークの実現に向け、通信環境をどう整備していけばいいのか、という相談が増えているという。

こうした通信ニーズに対し、同社は拋

点ごとに様々なアクセス回線の組み合わせが可能で、インターネットを経由しない閉域のリモートアクセスサービスがオプションメニューとして用意された統合型広域イーサネットサービス「Think VPN」を提案している（図）。「セキュリティを損なわずに庁外を含めた多様な業務環境からでもアクセスが可能のため、自治体の皆様から高い評価をいただいています」と東北インテリジェント通信の三浦直人氏は手ごたえを話す。

性能・機能・コストで評価された
低価格・高信頼度の通信サービス

ネットワークサービスでは安定性や信頼性が欠かせない。「高い評価をいただいた性能・機能、コストについては、常にお客様に満足いただけるよう低価格かつ高信頼度のサービス提供を心掛けています」と三浦氏は述べる。

主力サービスのThink VPNでは、アクセス回線として、光ファイバーでの提供が困難な拠点などでも利用が可能な「ワイヤレスアクセス」を新たに追加したほか、ネットワークの拡張性を考慮し、閉域通信網からインターネットと安全に接続する機能の強化や、複数の主要クラウドサービスと接続する機能などを拡充する計画だ。

サービスバックボーンについても、

5GやIoTの利用によって、今後増加が見込まれる通信トラフィックに対応するため、継続して局間中継伝送路の高速・大容量化（100ギガ化）を計画的に進めているほか、老朽化した設備の更新や、激甚化する自然災害に備えた電源設備の拡充を図っている。

運用面では、サービス稼働率99.999%以上（ファイブ9）を社内目標に掲げ、障害復旧時間の短縮を目的とした工事施工会社との訓練を継続的に実施、近年目標を達成しているという。

さらに、コロナ禍にあってもネットワーク運用に支障のないようネットワークセンターのスタッフの勤務形態を工夫するほか、若手技術者の現場作業を遠隔から支援するメガネ型ウェアラブルツールを各支社に配備するなど、適切な指示・支援を実施できる環境を整備。「日ごろから社員と工事施工会社の技術力向上などに努め、現状に満足することなく、さらに低価格かつ満足度の高いサービス提供に取り組んでいきます」と三浦氏は強調する。

ネットワークサービス以外でも、テレワーク環境構築の需要の高まりを受け、MVNO事業モデルによるモバイルデータ通信サービスや、クラウドPBXサービスなどモバイル領域のサービスを拡充した。「まず、私たちの社内でもモバイルサービスを活用し、使い勝手を確かめた上でお客様に提案しています」と三浦氏は話す。

GIGAスクール構想や
行政改革の実現を支援

東北インテリジェント通信のネットワークサービスは、GIGAスクール構想を進める教育機関や、デジタル化の推進で働き方改革を推進する自治体で活用されている。ある地方の教育委員会では、児童・生徒に1人1台の端末の導入とクラウド活用を前提に、動画を使った授業や遠隔教育に向けて高速・大容量の通信ネットワークの整備を検討。校内LAN構築、機器調

Government IT System Satisfaction
2020-2021東北インテリジェント通信株式会社
取締役社長

三浦直人氏

達、ネットワーク構築の一括提供の要求に地域のパートナー企業と連携して対応、ネットワーク基盤としてThink VPNを提案した。多様なアクセス回線による拡張性や運用性が評価されて採用が確定、現在構築を行っているところだという。

また、ある自治体ではコロナ禍を契機に新たな働き方を模索。一部の職員の在宅勤務を実現すべく、モバイル接続環境整備の要望を受けた。自治体は住民情報をはじめ、秘匿性の高い個人情報を取り扱うため、庁内に閉じた高セキュリティのネットワークを構築している。そのため、職員の自宅などでのテレワーク環境を整備するのは容易ではないが、同自治体の既存閉域通信網にリモートアクセスを追加することでテレワーク環境整備を実現した。「自治体のテレワークではセキュリティが重視されます。インターネットから隔離された閉域通信環境を提供できることが当社の強みとなっています」と三浦氏は優位性を話す。

お問い合わせ先

東北インテリジェント通信株式会社

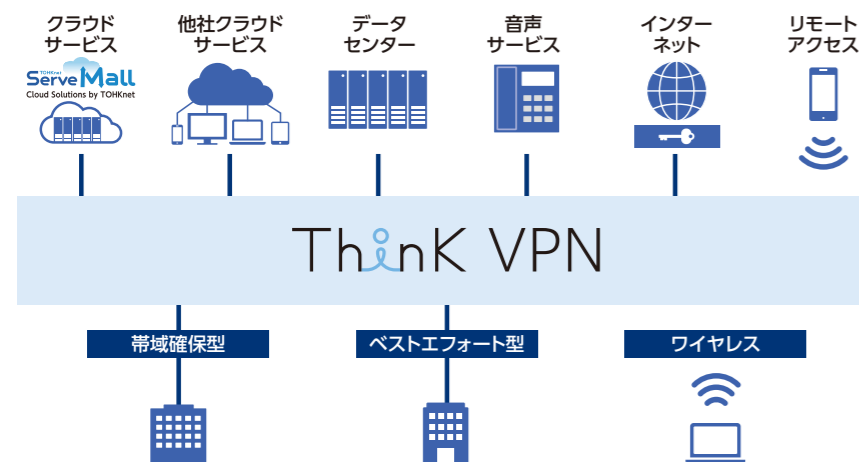
TEL: 022-799-4201

URL: <https://www.tohknet.co.jp/>中長期経営方針
「プラン2025」始動

親会社の東北電力が、2月に「東北電力グループ中長期ビジョン」を公表。グループの基盤事業である電力供給事業の徹底的な強化に加え、スマート社会実現事業を成長事業と位置付けた。これに呼応する形で東北インテリジェント通信も2025年度までの中長期経営方針「プラン2025」を策定。3つの重点戦略「既存領域の深化」「成長領域への拡大」「変革への挑戦」を設定した。

「東北電力グループの力を結集しつつ、メーカーやベンダーの皆様と連携しながら、地域社会のDXに資する取り組みを推進していきます」と三浦氏は力を込める。Think VPNなどのネットワークサービスを基盤に、企業・自治体の課題を解決する商材を組み合わせるソリューションとして提案する同社の取り組みが注目される。

閉域通信環境を実現する統合型広域イーサネットサービス「Think VPN」



帯域確保型、ベストエフォート型、ワイヤレスアクセスの充実したアクセス回線を用意。クラウドサービスや音声サービスなど様々なサービスと連携し、ニーズに合ったサービスをワンストップで利用できる